

第1章 調査概要

報告書のみかた

- (1) 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（付問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- (2) 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。また、2つの選択肢を集約した場合（「とても良いと思う」と「良いと思う」を合計した『良い』など）は、該当選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、グラフに示した選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- (3) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- (4) 図中の「N」は集計対象者数（あるいは、分類別の該当対象者数）を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。
- (5) 回答者数は、各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重し規正した。これは標本数の配分にあたり、湖西地域は他の6地域（大津、湖南、甲賀、東近江、湖東、湖北）の2倍のウェイトを加重して抽出したためである。

1. 調査目的

県政全体に関する満足度と県政の当面する主要課題等をテーマに選び、県民の意識・意向を調査し、今後の県政をすすめるうえでの基礎資料とする。

2. 調査期間

平成26年6月5日～平成26年6月25日

3. 調査設計

調査地域	滋賀県内全域
調査対象	県内在住の満20歳以上の男女個人(外国人を含む)
標本数	3,000人
抽出台帳	選挙人名簿および住民基本台帳
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査票	日本語および翻訳調査票

4. 調査方法

郵送法、無記名方式

5. 調査機関

株式会社 地域未来研究所

6. 調査項目

- (1) 県政全体に関する満足度について
- (2) 県の広報・広聴活動について
- (3) 「環境こだわり農産物」および「おいしが うれしが」キャンペーンについて
- (4) 認知症の医療と介護について
- (5) 消費者教育について
- (6) 環境学習について
- (7) 低炭素社会づくり・地球温暖化対策について

7. 標本構成

(1) 層化

県内の市町を7地域に分類した。

大津	大津市
湖南	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲賀	甲賀市、湖南市
東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
湖東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖北	長浜市、米原市
湖西	高島市

(2) 標本数の配分

各地域規模の層における20歳以上の人口を基に、ウェイト補正（「(4)調査結果の集計表示方法」を参照）を行って3,000人の標本数を比例配分した。

	推定母集団（人）		標本数（人）		地点数 （地点）
		うち外国人		うち外国人	
大津	273,766	2,781	701	7	47
湖南	251,516	2,672	645	7	44
甲賀	118,263	2,731	302	7	21
東近江	187,019	2,626	478	7	34
湖東	124,061	1,627	317	4	24
湖北	130,917	2,038	335	4	23
湖西	43,360	343	222	3	15
合計	1,128,901	14,817	3,000	39	208

注1) 抽出地点は、平成22年度国勢調査時に設定された調査区を使用した。

注2) 推定母集団は、以下のように算出した。

- ・日本国籍のものは、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録者数をベースに算出した。
- ・外国籍のものは、平成25年12月31日現在の住民基本台帳人口調査結果（外国人人口集計表）をベースに、「平成25年版在留外国人統計」（法務省）（平成24年12月末現在）の成人比率で補正し、算出した。
なお、推定母集団（うち外国人）は、四捨五入して表示しているため、各市町の合計値と県計は一致しない。また、標本数（うち外国人）は市町毎に算出しているため、各市町の合計値と県計に外国人比率を乗じた値とは一致しない。

(3) 調査票の回収結果

有効回答数は1,612件で、有効回収率は全体で53.7%となった。

	標本数 (人)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
大津	701	371	52.9
湖南	645	337	52.2
甲賀	302	169	55.9
東近江	478	250	52.3
湖東	317	175	55.2
湖北	335	188	56.1
湖西	222	113	50.9
不明・無回答		9	—
合計	3,000	1,612	53.7

(4) 調査結果の集計表示方法

各地域とも統計的な信頼度が確保できるように、以下の通りの標本数と抽出ウェイトとしている。

地域別の抽出数が異なるため、有効回収数に集計ウェイトを加重し補正した。調査結果は、この「規正標本数」を基数として集計を行った。

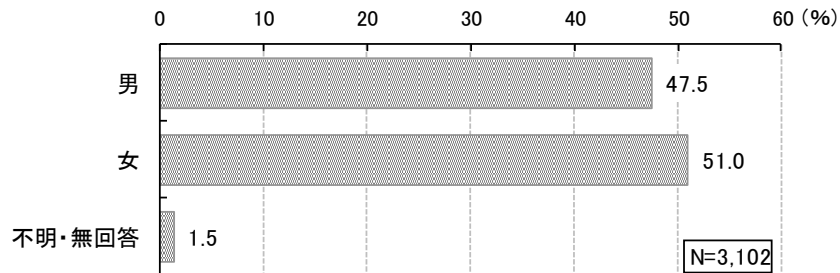
	抽出 ウェイト	標本数 (人)	有効回収数 (件)	集計 ウェイト	規正標本数 (件)
大津	1 / 2	701	371	2	742
湖南	1 / 2	645	337	2	674
甲賀	1 / 2	302	169	2	338
東近江	1 / 2	478	250	2	500
湖東	1 / 2	317	175	2	350
湖北	1 / 2	335	188	2	376
湖西	1	222	113	1	113
不明・無回答			9	—	9
合計	—	3,000	1,612	—	3,102

8. 回答者の属性

ここでは回答者の属性について、性別、年代別、居住地域別、職業別、勤務地（通学地）別、居住歴別にみた結果を示す。

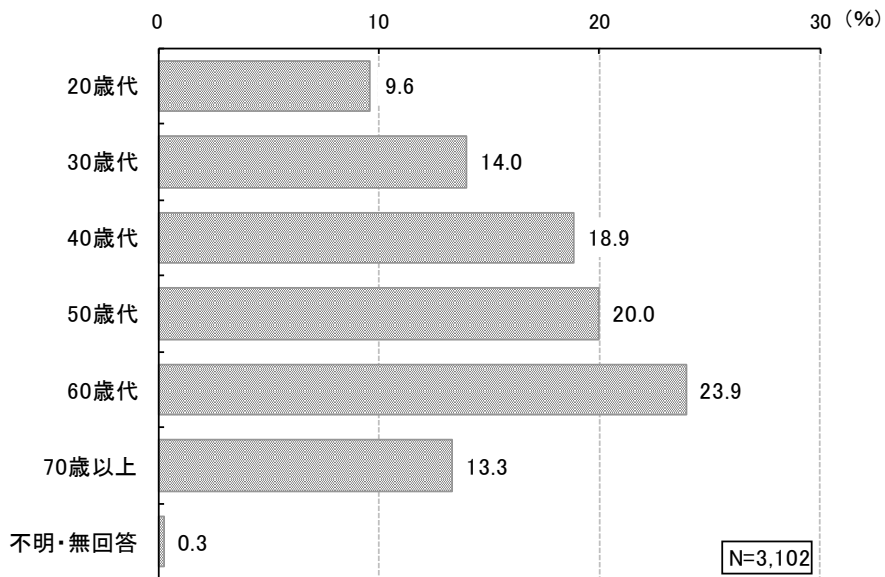
（1）性別

性別は、「女性」が51.0%、「男性」が47.5%となっている。



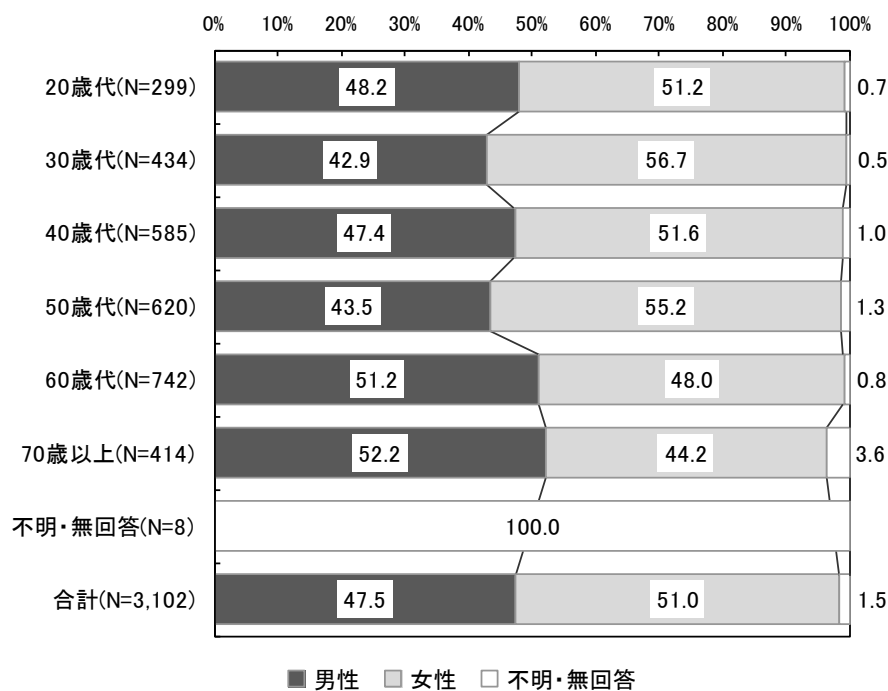
（2）年代別

年代は、「60歳代」が23.9%で最も多く、以下、「50歳代」が20.0%、「40歳代」が18.9%と続いている。



(3) 性・年代別

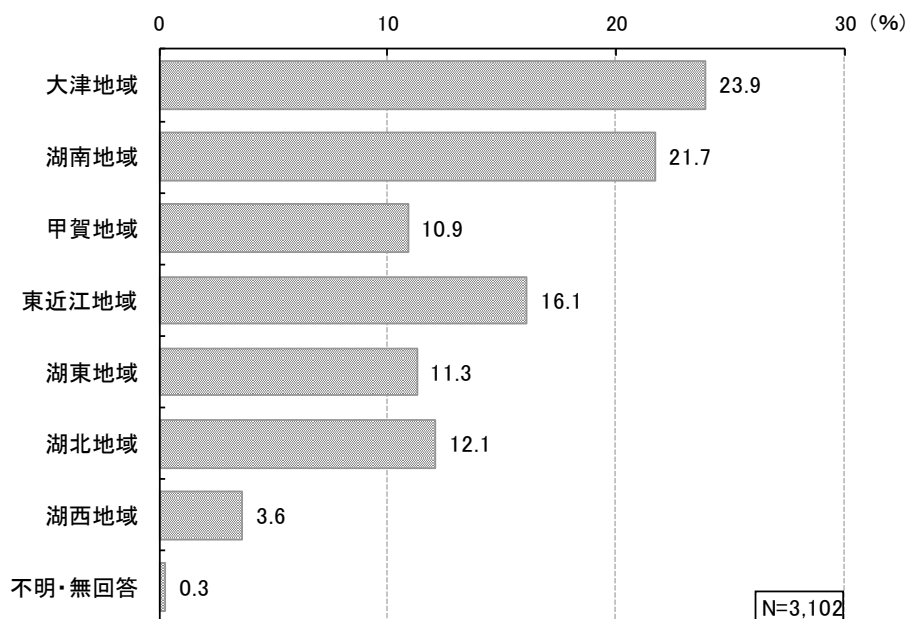
性・年代別の構成をみると、50歳代以下では女性が50%以上を占め、男性の比率を上回っている。逆に60歳代以上では男性が50%以上を占めている。



	規正標本数 (件)	男性 (%)	女性 (%)	不明・無回答 (%)
20歳代	299	48.2	51.2	0.7
30歳代	434	42.9	56.7	0.5
40歳代	585	47.4	51.6	1.0
50歳代	620	43.5	55.2	1.3
60歳代	742	51.2	48.0	0.8
70歳以上	414	52.2	44.2	3.6
不明・無回答	8	0	0	100.0
合計	3,102	47.5	51.0	1.5

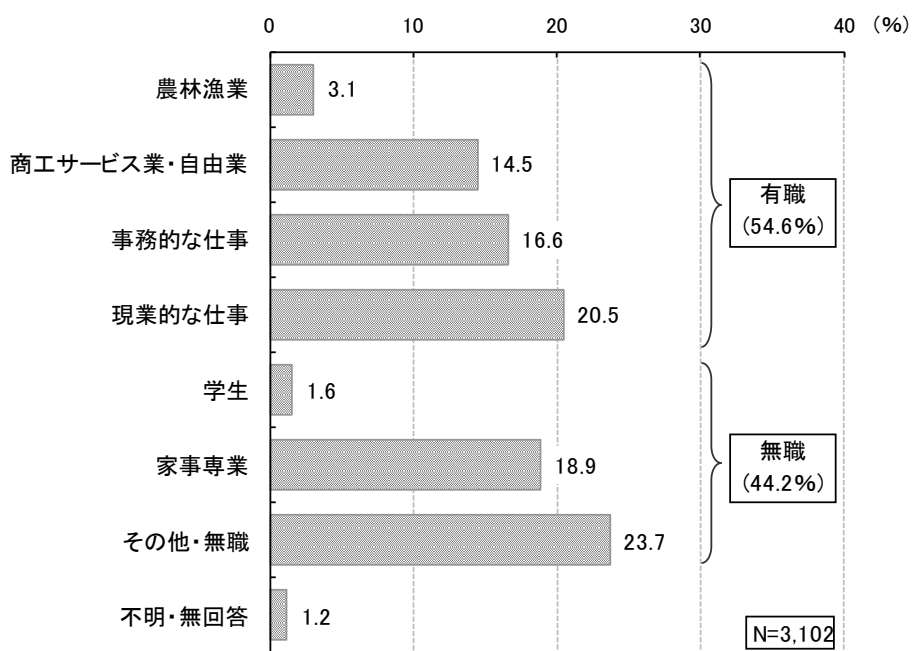
(4) 居住地域別

居住地域は「大津地域」が23.9%と最も多く、以下、「湖南地域」が21.7%、「東近江地域」が16.1%と続いている。



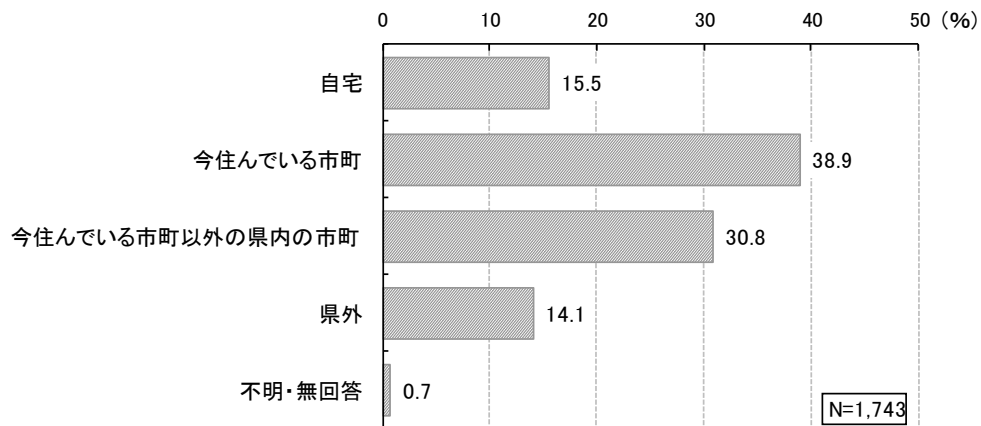
(5) 職業別

職業は、有職が54.6%となっており、そのうち「現業的な仕事」が20.5%で最も多く、次いで「事務的な仕事」が16.6%となっている。これに対して無職(※その他含む)は44.2%となっており、そのうち「その他・無職」が23.7%で最も多く、次いで「家事専業」が18.9%となっている。



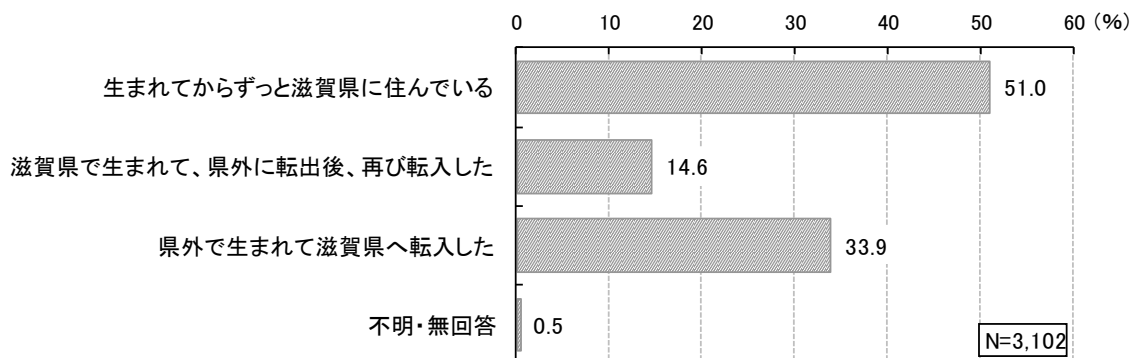
(付問1) 勤務地(通学地)別

「農林漁業」「商工サービス業・自由業」「事務的な仕事」「現業的な仕事」「学生」と回答した人に対して、勤務地(通学地)をたずねたところ、「今住んでいる市町」が38.9%で最も多く、次いで「今住んでいる市町以外の県内の市町」が30.8%となっている。



(6) 居住歴別

居住歴は、「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」が51.0%で最も多く、次いで「県外で生まれて滋賀県へ転入した」が33.9%となっている。



(付問1) 転入後の居住年数別

「滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した」と「県外で生まれて滋賀県へ転入した」人に対して、転入後の居住年数をたずねたところ、「10年以上」が77.4%で最も多くなっている。

